

アンケートにみる現代人の体毛観

——無毛化を求める時代に——

いま毛深さは
男らしさのシンボルではなく
臭さのもとになりつつある



男性の中性化と潔癖症の増加が一層進む

昭和63年12月10日

ポーラ文化研究所

はじめに

ヒゲは威厳のシンボルからおしゃれへ

ヒゲをおしゃれとして生やすようになって久しい。かつては男らしさや威厳あるいは権威のシンボルであったが、もはやそんな時代ではなくなった。

1960年代後半、ヤングパワーの台頭に伴い、長髪とヒゲが反権威、反体制の象徴として若者の間で流行し、それまでのヒゲの意味を変えた結果、男性誌を賑わしたこともあった。その後、風俗として定着していったが、ここ数年来、男性が見られる対象として存在しはじめたとき、ヒゲはほかの体毛と同様に、その持つ意味を変えつつあるようだ。

脇毛——30年前に脇毛ブームがあった

オリンピックに集まる選手を見ていると、わざわざ出かけなくてもその国の風習について知ることができる。そのいい例は、体操や水泳の選手の脇毛である。今回のソウル・オリンピックでは日本をはじめ、アメリカや西欧の国の女性は皆剃っていたのに、東欧では剃っていないことに気がついた人も多かっただろう。このようなことはその国に行っても必ずしもすぐわかる内容ではない。一般に欧米は一つだと思いがちであるが、この事実はそうでないことを示している。同じヨーロッパなのになぜ違うのかはよくわからないが、一体いつごろから脇毛を剃るようになったのだろうか。

日本では昔は剃っていなかった。浮世絵をみると、上半身裸で化粧をしたり、身を清めている絵をよく見るが、脇の辺りを観察すると、脇毛がはっきりと見える。

脇毛を剃るようになったのは、洋服文化が入ってきてからだと言われているが、実際に普及しはじめたのはノースリーブの服がはやりはじめて、つまり昭和20年代も終り頃以降ではないかと思われる。

すこし話は横道にそれるが、ノースリーブがはやりはじめて頃、当時の保守的な人達から「腕の付け根を露出することは不道德である」として役所の女子職員や女性教師に対し事実上の禁止通達がある市の市長から出たことがあった。ノースリーブで脇が露出しなければ脇毛の問題は起きないと考え、ノースリーブ着用自粛通達は一つの時代の節目を表していると考えられる。

さて、昭和28年10月に出た軟派な『生活文化』で「若い女は大抵剃っているね。全体的に見てまあ七、三ぐらいだね、剃っているのが三ぐらいだな」という発言がある（座談会「秋がわき猥談」）。実際に統計を取ったわけではなく、おそらく印象して七三と表現されたのだろうが、少なくとも剃っている人の方が剃っていない人より少数派であることは間違いないだろう。つまり、昭和28年頃は半数以上の女性はまだ脇毛を剃っていなかったようである。

さらに雑誌を調べると、昭和31、2年頃、「わき毛ブーム」などと週刊誌や月刊誌に取り上げられたことがある。簡単に内容を紹介すると、

ワキ毛の魅力というのが最近話題になっている。脱毛されない自然のままのワキ毛が野生的で魅力があるというので、新しい女性の武器と流行しそうな気配があるからだ。いま売り出し中の肉体女優、マリナ・グラディが「悪魔は地獄へ行け」でみせた金髪のロングヘアに片腕をのせ、ワキ毛をおし気なくさらけ出した水着姿のシーン。まったくものすごいセックス・アピール。…ワキ毛の魅力を、いかに発揮している。日本でも…谷洋子や、淡路恵子がワキ毛露出性的魅力型（『オール読物』昭和31年12月号）。

「映画界のワキ毛ブーム」 第4回アジア映画祭（に出席した）外国女性は、全部が全部といていいほど、フサフサとした自然のままを、大っぴらにイブニング・ドレスからはみ出させていた。…「売らんかな」の映画会の最後の拠点はこの夏あたり、ワキ毛に集中されそうでさしあたり“ワキ毛ブーム”を現出するのは間違いないところだろう。…この夏の流行はスリーブレ

スだ。袖の全然ない、手がつけ根から丸出しにあるあれだ。当然、モロモロのご婦人方はワキ毛の存在を無視して、この洋服を着用するわけにはいかない（『週刊サンケイ』 昭和32年6月16日号）。

もちろんその後、このブームは廃れ、ボルノ女優・黒木香氏の出現まで脇毛は登場しなかった。

これからは無毛時代か

——男性の中性化と清潔潔癖症の増加を一層促す

ここ一、二年ほど前から、「朝シャン」がブームになっている。清潔感を求める動きであり、自分の臭いを消す＝無自己臭＝シャンプーなどの化粧品の香りを付ける動きとも取れる。口臭を防ぐ、または消す洗口剤の流行もまた自分の臭いを失くす動きと見れば、「朝シャン」とも共通する。さらに毛深さが臭いの元として嫌われ、すね毛を抜くことがヤングの間ではやりはじめていることも一緒に考え合わせると、現代の身体の周辺のはやりごとが一つに見えてくる。

例えば、「モジャモジャの毛深い男に明日はない」（『チェックメイト』87/7月号広告）という見出しで「脱毛器」を宣伝している広告や、「今年もまたショートパンツが大人気。…そこで気になるのがスネ毛。」（『ポパイ』87/8/5）と言いながら「脱色剤」を紹介している記事、さらには「毛が濃いと、体臭がこもるんですよ。…女の子の毛を剃る気持ち、わかるなあ」（目黒区・16歳・学生）（『チェックメイト』88/8 BODY欄）という投書など、現代のヤング向けの雑誌をめくると、以上のような活字が目飛び込んでくる。

本来的には「自分らしさ」の表現として自分の臭いがあったのに、いまは自分の臭いを消すことが時代の流行になっている。臭いだけでなく、毛深さを嫌う傾向は、毛深さの持つ男性性をも否定し、男性の中性化に拍車をかけているようだ。

男性性のシンボルの一つであるヒゲに関しても、「いまどき、ヒゲの濃いやつはモテない。…悩み多き青ヒゲ少年たちのつぶやき。…ここだけの話だけど…女子どものヒゲ酷評。」（『DANSEN』88/7「男とは？ 肉体とは？ 鬚」欄）というようなヒゲに関する特集記事（最後に「シェービングの常識」＝ヒゲの剃り方を紹介している）が目立っている。

社会全体が中性化、あるいは両性具有化していく中で、そのうち、「ヒゲを抜き（剃るではない）」「脇毛を剃った男性」が表われても不思議でない。そんなことまで想像させる昨今であるが、一体、現代人は体毛に関してどのような意識を持っているのだろうか。

以上のような意識に立ち、今回は最終ページにあるようなアンケート調査を行ない、現代人の体毛に関する意識の一端を探ってみた。

なお、結果の全体的な考察については、上記の内容とほぼ一致するため、略すこととした。

調査概要

1. 目的 上記のような問題意識で、男性女性の両方にヒゲ、脇毛、すね毛などについての意識調査を行なった。
2. 調査対象者 男性：都内の会社（広告代理店、印刷会社、など）に勤める会社員
女性：都内スイミング・クラブに来訪した女性
各200名
3. 調査方法 アンケート留め置き法
4. 調査期間 8月下旬から9月上旬
5. 対象者の属性
1 年齢と職業—男性は20代から50代の会社員を、女性は20代から40代の主婦を中心とした構成である。

表1
年齢分布

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	5人 2.5%	47人 23.3%	49人 24.2%	70人 34.7%	29人 14.4%	2人 1.0%	202人 100.0%
女	6人 2.8%	42人 19.6%	104人 48.6%	38人 17.8%	24人 11.2%	0人	214人 100.0%
計	11人	89人	152人	109人	53人	2人	416人

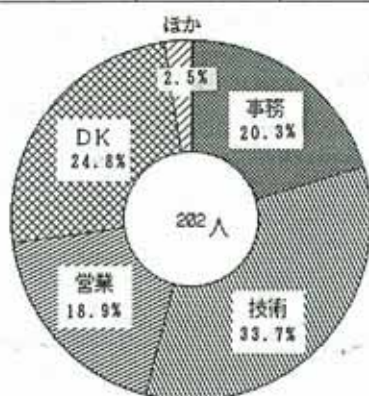


図1 職業（会社員）別分布（男性）

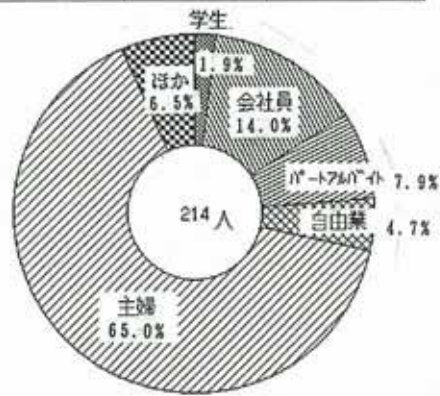


図2 職業別分布（女性）

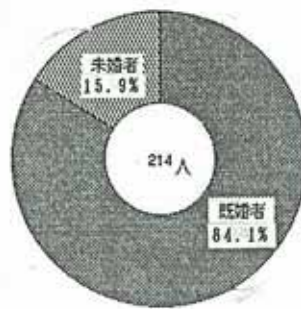
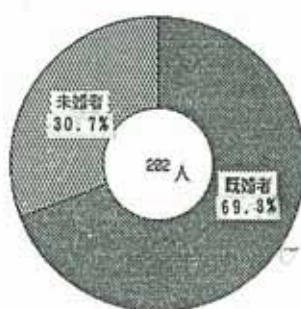


図3 未婚者の割合（左：男性、右：女性）

結果の概要

男性

ヒゲを伸ばしたことがある人は4人に1人

ヒゲを伸ばした理由は1/3以上が変身願望

ヒゲを伸ばした結果は否定的な感想を持つ人が半数以上

今も伸ばしている人は伸ばしたことがある人の16%

剃った理由――「似合わない」「薄い」「手入れが面倒」「社会的容認がない」の順

「ヒゲは自己表現の一つ」

ヒゲを伸ばさないのは半数以上が「似合わない」

エチケットなど周りの意見によっては、すね毛や脇毛を剃ってもいい人が1/3以上いる

女性

「顔剃り」は月1回以上が6割おり、その第一の理由は「すっきりさせたい」

「すね毛」は何もしないが62%で、「濃い」人1/4を含む

93%の女性が脇毛を「剃る」か「抜い」ている

男性女性の意識は

●女性の「脇毛」「うぶ毛」「すね毛」はない、または薄い方がよいとされる

●男性の「脇毛」「すね毛」にはまだイメージ的に肯定される側面があるが、「胸毛」「ヒゲ（『ヒゲ剃り後の青さ』を含む）」「手の甲の毛」に関しては濃いと嫌われる傾向。特に若い人、若い女性に多い

<お問い合わせ先>

●ボーラ文化研究所（村澤）

結果の詳細

I 男性のヒゲに対する意識

20代	19人	36.5%
30代	17	32.7
40代	15	28.8
50代	1	1.9
計	52人	99.9%

表2 ヒゲを伸ばしたことがある人
全体の=25.7% (52/202)

6人を引く)、「大人らしく見えるから」と「童顔だから」で14人(27.4%、マルチアンサーのダブリ1人を引く)となり、ヒゲに実際の年齢より老けて見せる効果を期待したり、個性的演出効果を考えていることがわかる。

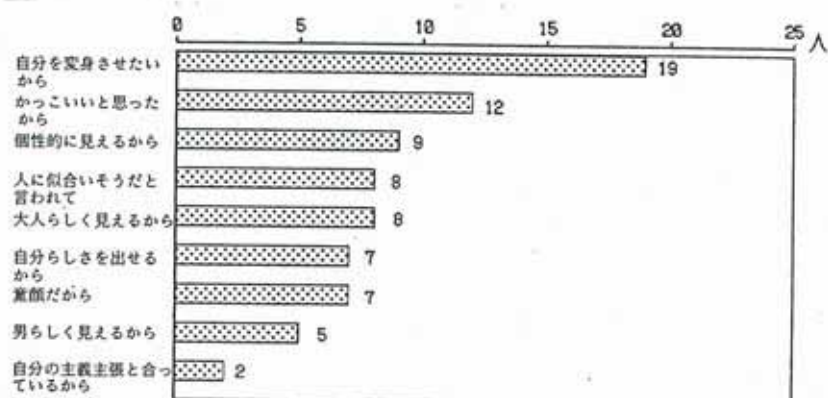


図4 ヒゲを伸ばした理由は？(M)

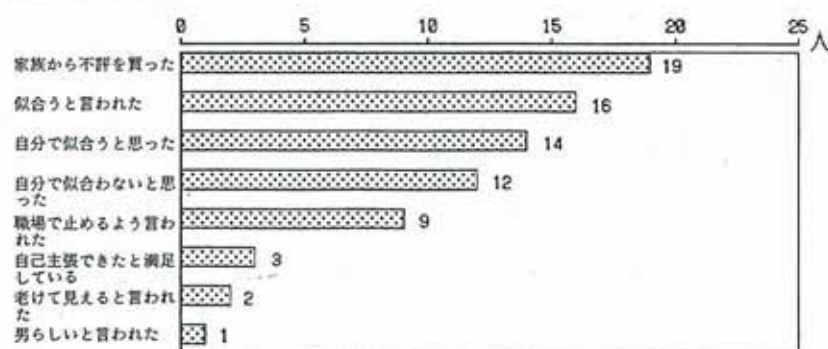


図5 ヒゲを伸ばした結果(M)

a. ヒゲを伸ばしたことがある人

ヒゲを伸ばしたことがある人は、表2のように、全体では52人、4人に1人の割合であったが、20代、30代は30%を越える率でほぼ3人に1人の結果を得た。

51人のヒゲを伸ばした理由をマルチアンサー(図ではMと記す)で聞くと、表4のようになる。「自分を変身させたいから」が19人(36.5%)と3分の1以上の支持を得、続いて「カッコいいと思ったから」が12人(23.1%)、「個性的に見えるから」が9人、「人に似合いそうだと

言われて」「大人らしく見えるから」が8人、「自分らしさを出せるから」「童顔だから」が7人となる。似た内容をまとめると、「個性的に見えるから」と「自分らしさを出せるから」で10人(19.6%、マルチアンサーのダブリ6人を引く)、「大人らしく見えるから」と「童顔だから」で14人(27.4%、マルチアンサーのダブリ1人を引く)となり、ヒゲに実際の年齢より老けて見せる効果を期待したり、個性的演出効果を考えていることがわかる。

さらにヒゲを伸ばした結果、自分でどう思い、周りからどんな反響があったかを聞いた結果が図5となる。「家族から不評を買った」が19人(36.5%)と3人に1人は結果的には不評を買ったことがわかる。続いて、「似合うと言われた」が16人(30.8%)「自分で似合うと思った」が14人(26.9%)、「自分で似合わないと思った」が12人(23.1%)、「職場で止めるよう言われた」が9人(17.3%)となる。

結果が積極的肯定と判断できる「似合うと言われた」「自分で似合うと思った」「自己主張がある程度できたと満足している」を一つでも回答している人をカウントしてみると、52人中23人、約44%を占めている。残りの29人はヒゲ自身に否定的

な感想を持つ、または持たされている。次の項で出てくる現在でもヒゲを伸ばしている人は前者の2

3人の中から、否定的な感触を持つ29人の中からは出てこない点は当然と言えば当然だが、ヒゲが単に個人の好みだけで成立せず、家族や会社など社会的承認も必要とされている点は興味深い。

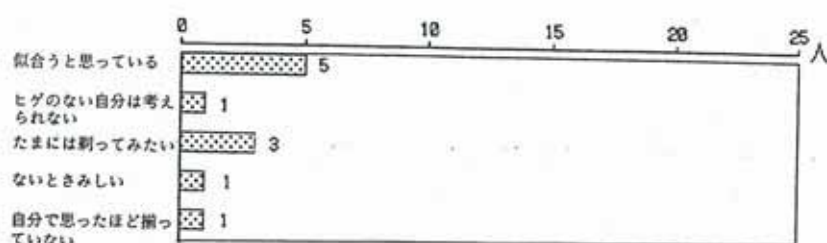


図6 ヒゲを伸ばしているいまの気持ちは（M）

b. 今もヒゲを伸ばしている人

過去にヒゲを伸ばしたことがある人51人中、現在でもヒゲを伸ばしている人は8人、15.7%に過ぎない。この8人についてどこのヒゲを伸ばしているかを聞くと、口ヒゲ5人、口ヒゲとあごヒゲが3人

であった。

8人の職業に特徴があるかをみると、会社員の事務系1人、会社員技術系2人、会社員（DK）が4人、自由業が1人となり、はっきりした傾向は見られなかった。

さらにヒゲを伸ばしている8人に現在のヒゲに対する気持ちをマルチアンサーで聞くと、図6になる。「ないとさみしい」と答えた人は同時に「似合うと思っている」とも答え、ヒゲに対する思いが大きいようだ。

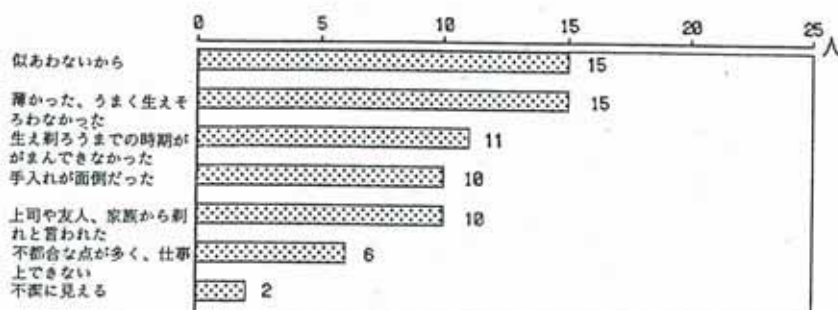


図7 ヒゲを剃った理由（M）

c. ヒゲを剃った理由

では最初の伸ばしたことがある人51人のうち、いまでも伸ばしている8人を除いた43人はなぜ剃ってしまったのだろうか。その回答が図7である。

「似合わないから」「薄かった、またはうまく生えそろうなかった」が15人（34.9%）となり、「生え剃ろうまでの

中途半端な時期ががまんできなかった」11人「手入れが面倒だった」「上司や友人、家族から剃れと言われた」が10人、「不都合な点が多く、仕事上できない」6人と続く。

第一位の「似合わないから」「薄かった、またはうまく生えそろうなかった」は一種の美的要素としての判断である。さらに「似合わない」と答えた人はなぜ似合わないと判断したのか、その理由を探してみると、3分の1の5人が同時に「生え剃ろうまでの中途半端な時期ががまんできなかった」と答えている点が目につく。「薄かった、またはうまく生えそろうなかった」については、ほかの項目との明確な関連は見られなかったが、一般的によくいわれる「ヒゲの薄い日本人」を物語っている。

次に多い「生え剃ろうまでの中途半端な時期ががまんできなかった」もまたヒゲが薄いために生えそろうまでかなりの日数を要するためであろう。続く「手入れが面倒」についてはおそらく口ヒゲの手入れ、すなわちほかのヒゲと違って一定の長さに整えておかないと口に入ってしまうので伸ばしっ放しにできないという面倒臭さがあるからであろう。

「上司や友人、家族から剃れと言われた」と「不都合な点が多く、仕事上できない」は他人規制、あるいは自己規制からヒゲを剃ってしまったことを表わしている。仕事の面では以前にタクシー運転手のヒゲについて裁判にまでなったことがあるが、日本の社会ではいままではヒゲの与える印象は決してよくなく、営業など客と接する機会の多い仕事では、上司に言われなくてもその雰囲気を感じ、

異動時にそれまで伸ばしていたヒゲを剃る人もいると聞く。その意味で、日本の社会ではヒゲは自己表現として完全に認められたものではなく、一般にはなんとなく皆で規制しているようである。

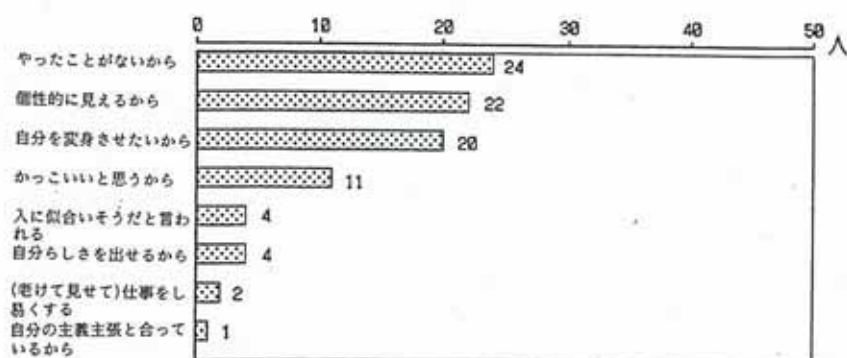


図8 ヒゲを伸ばしたことがないが、伸ばしたいと思ったことのある人50人の理由(M)

「20人」、「カッコいいと思うから」11人と続く。「やったことがないから」を除いてヒゲを伸ばしたことがある人の伸ばした理由の上位とほぼ一致する。「個性的に見えるから」が増えているが、彼らにとってはヒゲは自己表現の一つのようだ。

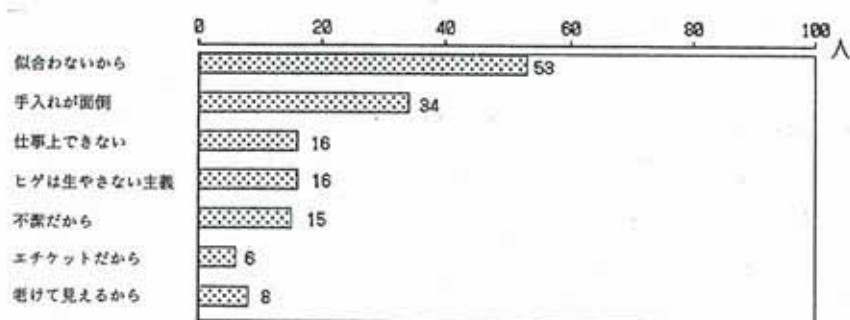


図9 ヒゲを伸ばしたことがなく、伸ばしたいとも思わない101人の理由(M)

が最優先していることがわかった。次に「手入れが面倒」とする人が34人(33.7%) 3分の1いるが、面倒な理由はすでに述べた。。また、「仕事上できない」「エチケットだから」と周りから規制する人も22人(21.9%)いた。伸ばしたい人の「個性的に見えるから」「カッコいいと思うから」という理由とは対照的である。「ヒゲは生やさない主義」とする人は16人(15.8%)いたが、そのうち6人は「似合わない」、3人は「手入れが面倒」と重複した理由を記していた。

d. ヒゲを伸ばしたい理由

ヒゲを伸ばしたことがない残りの151人に対して、ヒゲに対する憧れなどを聞いてみた。伸ばしたいと思ったことがある人は151人中50人(33.1%)であった。その理由は図8のようになる。

一番多いのは「やったことがないから」24人で、次に「個性的に見えるから」22人、「自分を変身させたいから」20人、

e. ヒゲを伸ばしたくない人

最後にヒゲを伸ばしたことがなく、伸ばしたいとも思わない人101人にその理由を聞き、図9に示した。ヒゲを伸ばしたが今は剃ってしまった人の剃った理由と、実際に伸ばしたときに発生する理由を除いて、順位は同じ傾向を示している。「似合わない」とする人が53人(52.5%)と半数以上おり、美的センス

II 男性のすね毛と脇毛に対する意識



図10 すね毛(左) (脇毛(右))を剃れと言われたら (M)
(カッコ内はすね毛脇毛両方に回答した人数)

男性のみにすね毛や脇毛を剃ることについての賛否を聞いてみた結果が図10である。すね毛、脇毛とも、第1位が「どんなことがあっても剃らない」でそれぞれ4割前後の人が剃らないとしている。すね毛脇毛両方に剃らないとしている人は3分の1いる。それぞれの回答率と両方の回答率に差があるのは、つぎの「剃るほど濃くない」と関係しているためである。脇毛を剃らないとしながらもすね毛は剃るほど濃くない、またはその逆の人がいるためである。

第2位は「剃るほど濃くない」で、すね毛で30%、脇毛で20%いる。アンケートの最後の方で自己認識として毛の濃さ(表4参照)を聞いており、薄いと答えた人(すね毛22.8%、脇毛18.8%)はほぼ「剃るほど濃くない」と答えている。剃る剃らないという条件を加えると、それほど濃くない=薄いと思ってい

	すね毛	脇毛	両方
20代	27.1%	18.8%	18.8%
30代	36.7	38.8	34.7
40代	20.0	32.9	20.0
50代	7.1	14.3	7.1

表3 「エチケットになったら剃る」人の年代別割合

る人が増える傾向にある。

第3位は「エチケットになったら剃る」で、すね毛で23.8%、脇毛で27.7%になる。以下、「みんなが剃れば自分も剃る」「妻や恋人などから言われたら剃る」「会社などの規則なら剃る」と他律的な回答が続く。

3番目以降「剃る」項を人数として集計し直すと、すね毛で71人(35.1%)、脇毛で76人(37.6%)となる。つまり、3人に1人以上の男性が周り

の意見によっては自分の脇毛やすね毛を剃ってもよいと考えていることがわかった。

この人たちの特徴を探るために、別の質問、「すね毛を剃った男性」「脇毛を剃った男性」を好ましいかどうかとの関係を探ったが、明確な傾向は見られなかった。なお、好ましさの結果は表14のように4分の3の男性が「好ましくない」と答え、「好ましい」と答えた男性はほとんどいなかった。

	濃い方	ふつう	薄い方	DK
ヒゲは	20.8%	55.4%	23.3%	0.5%
すね毛は	15.3	55.4	22.8	6.4
脇毛は	5.9	74.3	18.8	1.0
腕毛は	4.5	42.1	44.6	8.9

表4 男性の体毛の濃さの割合

なお、アンケート対象者の毛深さ(自己認識)は表4のようになる。「ヒゲ」「すね毛」では半数以上が「ふつう」と答えているが、「脇毛」では「ふつう」と意識している人が3/4近くになる。「腕毛」になると、「薄い方」と意識している人が一番多く45%を占め、つぎに「ふつう」が続く。参考までに体毛の濃さとはかの質問との相関を見たが、明確な結果は得られなかった。

III 女性の顔剃りなどに対する意識

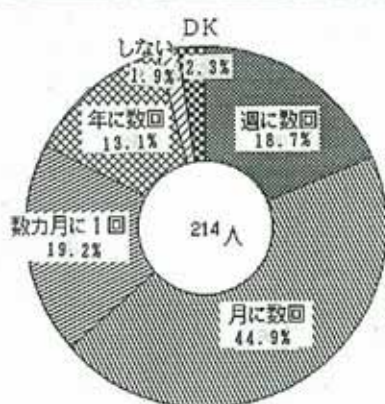


図11 手入れや脱毛の頻度

欧米人がうぶ毛を剃らない話は有名だが、日本人は一般にはほかの部分の毛と一緒に無駄毛と呼ばれ、剃るが当たり前といわれる。そこで、女性に無駄毛の手入れの頻度について聞いた結果が図11である。

1番多いのは「月に数回」のベースが4割以上で、つぎに「数ヶ月に1回」「週に数回」が2割弱のほぼ同率で続く。「年に数回」の人も10人に1人強でいる。また、全く手入れをしない人が若干いることがわかった。その理由は、フリーアンサーを見てみると、体質的にできない人たちのようだ。

全体的には月に1回以上の女性が6割を越えていることとなる。

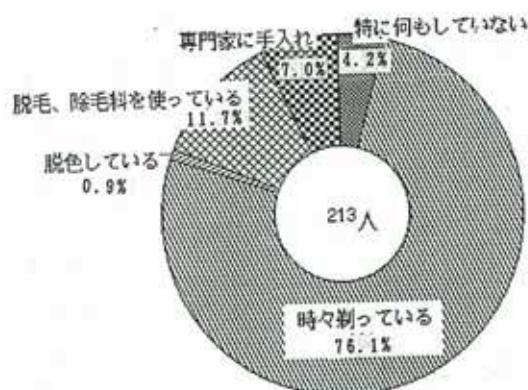


図12 手入れと脱毛の方法

次にその手入れや脱毛の方法を聞いた結果が、図12となる。「ときどき剃っている」が4分の3を越え、その次に「脱毛、除毛料（ワックス、クリーム、テープ）」で脱（除）毛している」が約10人に1人の割合である。基本的には剃っていることがわかる。

さらに手入れや脱毛をする理由を聞いたのが図13で

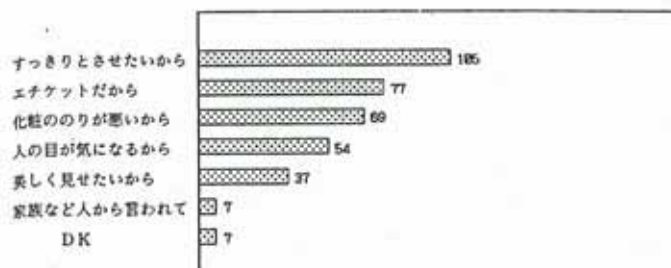


図13 手入れと脱毛の理由（M）

ある。マルチアンサーであるが、半数近くの人が「すっきりとさせたい」と答え、ほぼ3分の1の人が「エチケットだから」「化粧ののりが悪いから」としている。続いて「人の目が気になる」「美しく見せたい」となる。

IV 女性のすね毛と脇毛に対する意識

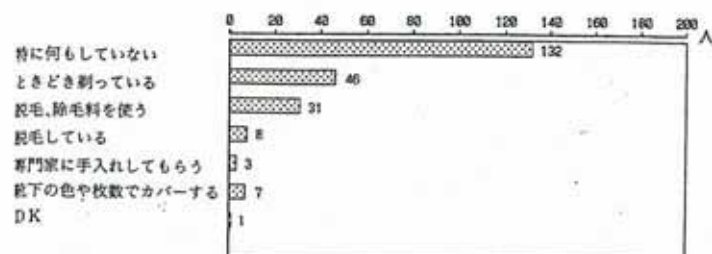


図14 すね毛などの手入れの方法（M）

すね毛

一般に女性にとってすね毛の濃さは決して望ましいものではない。そこで次にすね毛の手入れ方法と手入れする理由を聞いてみた（図14、15）。

手入れに関しては「特に何もしていない」が6割以上の回答を得、「ときどき剃っている」「脱毛、除毛料（ワックス、クリーム、テープ）」で脱（除）

毛している」と続く。特に何もしていない人が多い結果であったが、別の質問のすね毛の濃さとの関連を調べ、上記の3位までを表5の右側に付け加えた。当然のことながら、すね毛の薄い人は「特に何もしていない」人が多く、39人中32人、82.1%であったが、ふつうの人も102人中90人、88.2%と高い結果であった。しかし、すね毛が濃い人の1/4は何もしない人であることは、どう解釈するのだろうか。濃くても特に気にならないということであろうか。

	全体での人数 と割合	濃い 40人 中	薄い 39人 中	ふつう 102人 中
特に何もしていない	132 (61.7%)	10人	32人	90人
ときどき剃っている	46 (21.5)	16	5	25
脱毛、除毛料で除毛	31 (14.5)	11	3	0

表5 すね毛の手入れと濃さとの関係

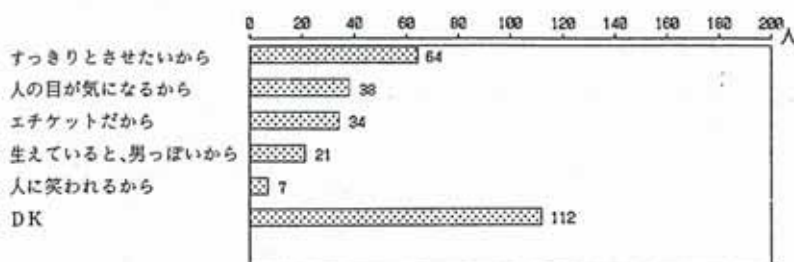


図15 すね毛を手入れする理由 (M)

入れするとしたら、と仮定して答えていることによる。

一位が「すっきりさせたいから」で約30% (DKを除く (102人) を分母として計算すると、62.7%で半分以上の支持を得たことになる。余分なものを取って「すっきり」とはまさにすね毛が無駄毛であることを物語っているのだろうか。

次に「人目が気になるから」「エチケットだから」「男っぽいから」と続く。

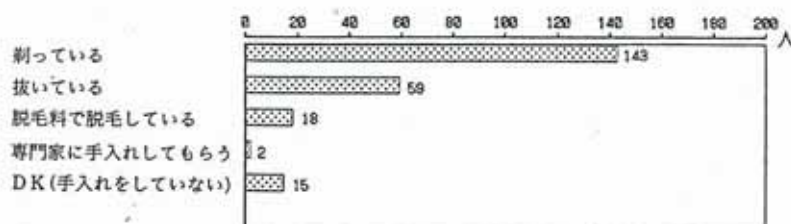


図16 いま (夏) 脇毛の手入れ方法 (M)

している人は16人、8.0%いた。

手入れを始めた年齢は13歳からはじまり20歳までで回答者 (DKを除く) の97.0%を占める。脇毛は第二性徴として発毛するものであるから、当然の結果であるが、大きく3つのピークがあることはおもしろい。つまり、15、16歳=高校に入ってから、18歳=高校卒業するころ、20歳

「ときどき剃っている」と回答した人では、「濃い」人の占める割合は増え、「薄い」人は減っている。

「脱毛、除毛料 (ワックス、クリーム、テープ) で脱 (除) 毛している」人も「ときどき剃っている」と同様の傾向を示している。

「濃い」と判断している人の4分の3がなんらかの手入れをしているが、全部ではないのは、「濃い」「薄い」という判断がかなり主観的で、必ずしも「濃い」からわるい、「薄い」からよいという価値判断が加わらないことも注意しなければならないだろう。

手入れをする理由に関しては、半数以上の無回答があったが、全員が前問 (表5) で「特に何もしていない」を回答した女性である。理由の方が20人ばかり多いのは、もし手

脇毛

すね毛以上に最近の女性の話題となっているのが、脇毛である。どのように手入れしているかを聞いてみた。図16がその結果である。214人中199人、93%の人が剃るか抜くかをしている。そのうち、約7割が「剃って」おり、約3割が「抜いている」。抜くと剃るの両方を併用

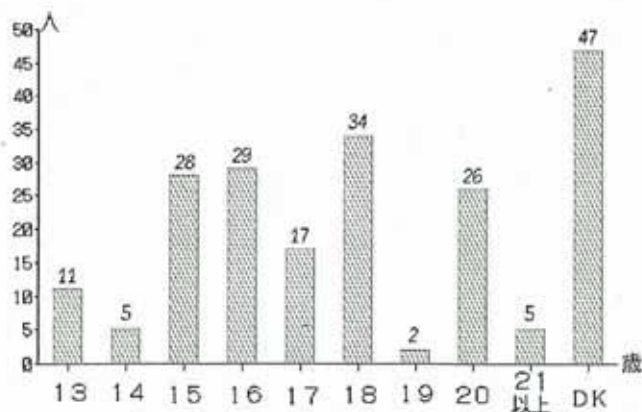


図17 脇毛の手入れを始めた年齢

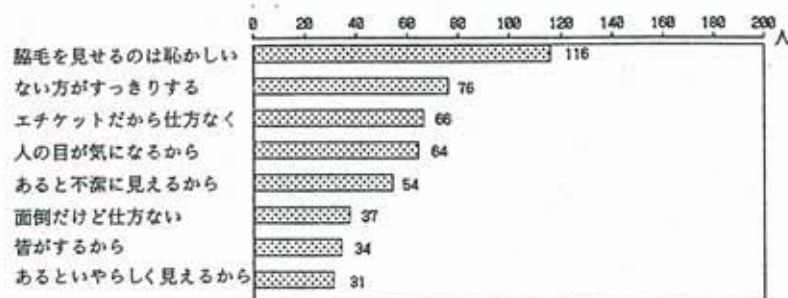


図18 脇毛を手入れする理由 (M)

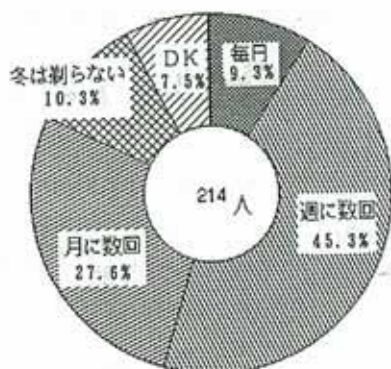


図19 手入れする頻度 (S)

	濃い方	ふつう	薄い方	DK
ヒゲは	8.9%	50.0%	24.3%	16.8%
すね毛は	18.7	47.7	18.2	15.4
脇毛は	13.6	56.5	22.9	7.0
腕毛は	11.2	44.9	22.0	22.0

表7 女性の体毛の濃さの割合

=成人を迎えるところで、それぞれ人生の節目と関係している。

DK (47人、22.0%) の多くはいつからはじめてか忘れてしまった人ではないかと思われる。

手入れをする理由は、「脇毛を見せるのは恥しい」が半数以上を占め、「ない方がすっきりする」「エチケットだから仕方なく」「人の目が気になるから」「あると不潔に見えるから」と続く。

「脇毛を見せるのは恥しい」「人の目が気になる」「あると不潔に見える」などの回答は、数は少ないが「いやらしく見える」につながるものを含んでいるようで、単なる体毛というより、性毛といった意識を抱かせているようだ。

また、「面倒だけど仕方ない」が2割弱おり、手入れの面倒さが現われている。

基本的に、すね毛などとは違った意識が脇毛にはあるようだ。

自然のままがいい	5人
あまり気にならない	5
面倒だから	3
その他 (かぶれるなど)	4

表6 脇毛を手入れをしない人 (15人) の理由 (M)

脇毛の手入れをしない人の理由を参考までに表6に示した。表7の脇毛の濃さとの関係を調べたが、「濃い方」が2人、「ふつう」が6人、「薄い方」が6人、「DK」が1人という結果で、どちらかというと薄い人が多い。しかし、その内容は特にはっきりしたものが得られなかった。

また、体毛の濃さは表7のようになる。男性に較べてDKが多いのが目立つ。実際によくわからないのか、あるいは恥かしい意識があるのか、いずれかはこの情報からではつかめないが、女性特有の結果と言えよう。「すね毛」を除いて、全体に薄いと意識している人が多い傾向にある。

V 男性女性の見た体毛観と男女差

最後に男女共通に、図20、21のような15項目の女性と男性イメージについて「好ましい」「どちらでもない」「好ましくない」のいずれが該当するかを質問してみた。

女性像

1)「脇毛を剃らない女性」——「好ましくない」が男性で60.9%、女性で69.6%と「脇毛を剃らない女性」は女性の方が支持率が低い。女性にとって脇毛は剃るものと言えよう。

2)「顔のうぶ毛が目立つ女性」——男女ともほぼ同様の回答をしており、半数以上が「好ましくない」としている。

3)「脇毛を剃った女性」——この項は、男女ともほぼ同様の回答をしており、6割近い人が「好ましい」としている。前述の「脇毛を剃らない」と比べると、男性は答えが逆転(辻妻が合う)しているが、女性の回答にズレ(「脇毛を剃らない女性」=「好ましくない」が69.6%に対し、「脇毛を剃った女性」=「好ましい」が57.5%と10%以上の違い)が見られ、脇毛に対する複雑な女性の心があるように思える。

4)「すね毛の濃い女性」——「好ましくない」とする女性が59.8%に対し、同じ男性は73.8%と15%近い差が見られる。男性の方がより好ましくないと思っているようだ。

5)「ヒゲの濃い女性」——ここでも「すね毛」同様、「好ましくない」とする女性が74.3%に対し、男性は88.1%と10数%の差がある。女性のヒゲと男性のヒゲとは違うとは言っても、ヒゲと言われると男性性のシンボリック的要素が存在するからであろうか、「好ましくない」が男性に多い結果となっている。

男性像

6)「脇毛を剃った男性」——この項目以降は男性に関してだが、「脇毛を剃った男性」に関しては

男女ともほぼ一致し、8割近くが「好ましくない」としている。

7)「脇毛の濃い男性」——前項の反対に近い項目だが、男性が「どちらでもない」がやや女性より多い程度で、ほぼ似た傾向を示している。男女とも、8割が「どちらでもない」とし、1割以上が「好ましくない」としている。

8)「すね毛をそった男性」——「好ましくない」とする女性が79.4%に対して男性が72.5%とやや男性が低い傾向にあり、4)と同様、すね毛が男性的なイメージを持っていると言えそうだ。



図20 男性の見た体毛観

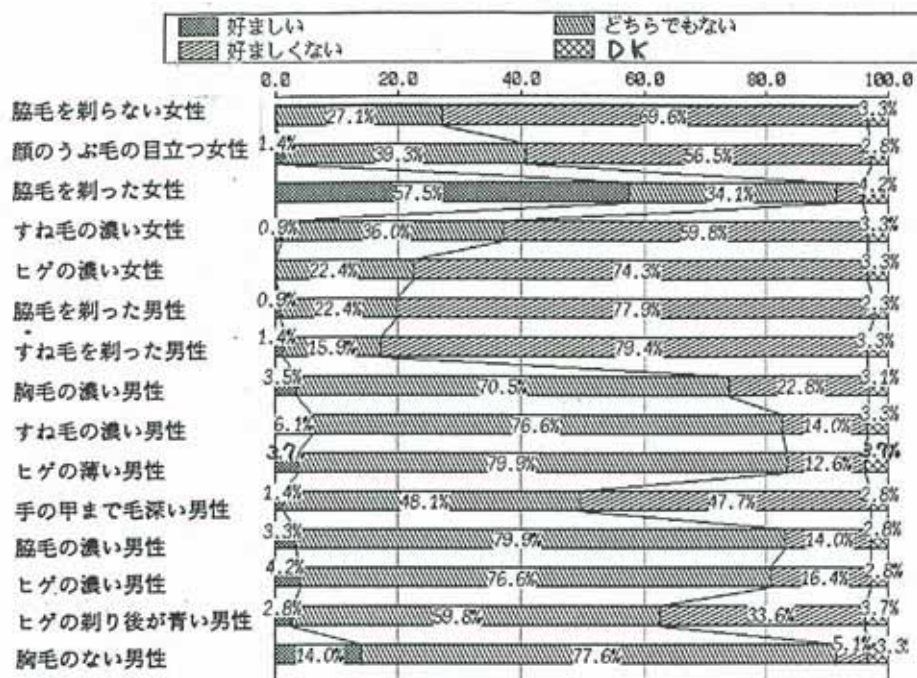


図21 女性の見た体毛観

が、「好ましい」が女性では14.0%に対し、男性が4.5%と前項と同様の傾向がでている。

胸毛に関するこの2項の年代別分布を調べると表8のようになる。ベースの年齢分布が均一でないため、明確には言えないが、若い人ほど「胸毛のない」方向を好むことがわかる。この傾向は若い女性に特に強いようだ。

		10代	20代	30代	40代	50代	60代
男 性	「胸毛のない男性」は好ましい	1/5人 20.0%	4/47人 8.5%	1/49人 2.0%	2/70人 2.9%	3/29人 10.3%	0/2人 0.0%
	「胸毛の濃い男性」は好ましくない	1/5人 20.0%	8/47人 17.0%	3/49人 6.1%	6/70人 8.6%	3/29人 10.3%	0/2人 0.0%
女 性	「胸毛のない男性」は好ましい	3/6人 50.0%	11/42人 26.2%	12/104人 11.5%	3/38人 7.9%	2/24人 8.3%	
	「胸毛の濃い男性」は好ましくない	3/6人 50.0%	17/42人 40.5%	26/104人 25.0%	10/38人 26.3%	3/24人 12.5%	

表8 胸毛についての好ましさと年代別分布

12) 「手の甲まで毛深い男性」——この項に関しても「胸毛」同様、「好ましくない」が男性の39.5%に対し、女性の47.7%と女性に多い。女性では2人に1人が嫌う傾向にある。

この項の「好ましくない」の年齢別傾向を調べたが、はっきりとした差は見られなかった。

13) 「胸毛の濃い男性」——「好ましい」で男性が9.9%に対し、女性が4.2%、「好ましくない」で

9) 「すね毛の濃い男性」

——前項の反対に近い項目だが、男性が「どちらでもない」がやや女性より多い程度で、ほぼ似た傾向を示している。8割前後が「どちらでもない」とし、1割以上が「好ましくない」としている。

10) 「胸毛の濃い男性」

——「好ましくない」が男性で10.4%に対し、女性が2倍以上の22.8%いた。「好ましい」も量的には少ないが、男性6.4%、女性3.5%と同様の傾向を示している。女性は「胸毛の濃い男性」を嫌っているようだ。

11) 「胸毛のない男性」

——前項のほぼ反対の項目だ

		10代	20代	30代	40代	50代	60代
男 性	好ましい	0/5人 80.0%	0/47人 31.9%	3/49人 22.4%	12/70人 8.6%	5/29人 17.2%	1/2人 50.0%
	好ましくない	4/5人 0.0%	15/47人 0.0%	11/49人 6.1%	6/70人 17.1%	5/29人 17.2%	1/2人 50.0%
女 性	好ましい	0/6人 0.0%	0/42人 0.0%	2/104人 2.0%	2/38人 5.3%	2/24人 8.3%	
	好ましくない	3/6人 50.0%	28/42人 66.7%	29/104人 27.9%	9/38人 23.7%	5/24人 20.8%	

表9 「ヒゲの剃り後が青い男性」についての年代分布

を嫌う傾向が伺われる。

女性の場合でも、男性と同様の傾向がより強く見られる。若い女性ほど、ヒゲ剃り後の青さを嫌っていると言えよう。

15) 「ヒゲの薄い男性」――男女ともほぼ同様の傾向にあるが、「好ましくない」で男性が6.4%に対し、女性が12.6%と増えているが、「好ましい」では男性が6.4%で女性が3.7%と低くなっている。男女とも8割が「どちらでもない」としている。

以上をまとめると、次のようになる。

- 女性の「脇毛」「うぶ毛」「すね毛」はない、または薄い方がよいとされる。
- 男性の「脇毛」「すね毛」はまだイメージ的に肯定される側面があるが、「胸毛」「ヒゲ（『ヒゲ剃り後の青さ』を含む）」「手の甲の毛」に関しては濃いと嫌われる傾向にあり、特に若い人、若い女性にその傾向が強い。

考察に代えて

以上の結果から全体を見渡すと、「はじめに（P1～2）」で述べた内容と一致し、男性の毛深さが嫌われ、一層の中性化が進みつつあると言える。

その主たる原因は清潔潔癖症と呼ばれる「クササ」を嫌う風潮にあり、今後増えてくるようにも思える。まさに、「臭いものに蓋」。クサイものを容認しない、あるいは排除しようとする考えである。

言うまでもなく、体毛をほとんどの人が自分の体に持ち、社会の価値観に影響されて、今、剃ったり生やしたりしている。今回の調査を通じて、無毛化という内容が単なる流行などと言って片付けられない要素を含んでいるように思える。決して毛の先ほどの問題には終わらないだろう。

男性が3.5%に対し、女性は16.4%と、女性は「ヒゲの濃い男性」を嫌う傾向が見られる。

14) 「ヒゲの剃り後が青い男性」――前項同様、「好ましい」で男性が10.4%に対し、女性が2.8%、「好ましくない」で男性が20.8%に対し、女性は33.6%と、女性に強く嫌う傾向が見られる。

年代別傾向を見ると、表9となる。男性の場合、「好ましい」方は30代以上にしか見られず、「好ましくない」はヤング層に多く支持されている。若い男性ほど、ヒゲ剃り後の青さ